

# 支え愛プラン通信

## 第3期神奈川区地域福祉保健計画

今回は、2月5日に開催した、「みんながつながるまちのつどい(第34回神奈川区社会福祉大会)」の様子をお伝えします。

みんながつながる  
まちのつどい

- 日時：平成31年2月5日(火) 13時30分～16時
- 会場：かなっくホール
- 主催：神奈川区社会福祉協議会(以下、区社協)、神奈川区役所

### 第1部

## 社会福祉功労者 感謝状贈呈式

神奈川区の福祉活動の発展に貢献された方に対してその功績をたたえ、感謝状を贈呈しました。



福祉活動功労者54名と5団体に感謝状を贈呈しました。



金品寄付功労者・団体4団体に感謝状を贈呈しました。

### 第2部

## 「かながわ支え愛プラン」の区計画中間振り返りについて

かながわ支え愛プラン(第3期神奈川区地域福祉保健計画)は、区民の皆様や福祉施設・事業者などと、区・区社協・地域ケアプラザ等の支援機関が協働して進める計画です。今年度は計画期間(5年間)の中間年にあたるため、区計画の中間振り返りを行いました。

当日は、中間振り返りの報告とあわせて、計画の推進においてポイントとなるご意見を地域活動の実践者など6名から発表していただきました。また、かながわ支え愛プラン策定・推進会議 座長の聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科教授 豊田宗裕氏に進行と講評をしていただきました。

### 「かながわ支え愛プラン」 第3期区計画の中間振り返り

(説明者：小西 神奈川区福祉保健センター長)

中間振り返りでは、区・区社協・地域ケアプラザ等の取組の振り返りとあわせて、区内で活動する30団体へインタビュー等を行いました。インタビューでは、子どもの居場所が地域の様々な人の活動の場になっている事例や、障害者の施設が地域の人との交流の場になっている事例など「支え手」「受け手」の垣根や世代を超えたつながり、活動の場の広がりを感じる事が出来ました。

### 豊田氏からのコメント

かながわ支え愛プランで大切なことは、身近な課題を知り、理解を示し、実践してもらうことです。そして、自分たちの生活に役立ててもらえることです。私たちの生活は日々続いていくものですから、身近な課題に対する取組もその時だけのものではなく、毎日続けることが大切です。

すべての人が取組や課題に関心を寄せるのは難しいですが、計画を通して自分たちの周りの取組を知っていることが重要です。身近な課題や、行われている取組への関心を皆さん方の中で少しでも広げていただければと思います。



# 地域の皆さまからのメッセージ

## 地域の中での相互理解

障害者は外に出て地域の人と交流することが少ないのが現状です。交流の機会が少ないために理解が得られず、差別の原因になっている一面があります。社協や学校等では障害への理解を進める講座が行われていますが、一度の受講で実践に結びつけるのは難しいと思います。障害者も地域に出て交流することで、理解をしてもらうための活動をしていきたいです。



説明者：横浜市車いすの会  
神奈川県支部 高木 保夫氏

## つながりが、つながりをつくる

私たちがかめっ子は「どなたでもどうぞ」という地域のたまり場です。親子で来るだけでなく、お子さんが就学した後もお母さんが集まる機会や、障害のこともオープンに話せる関係性があります。将来的には地域の高齢者との多世代交流や、町内会や子ども会の紹介イベントを開き、ママさんに地域を知ってもらう、つながりづくりの場にもしていきたいです。かめっ子を通して、知る・理解が進む・優しくなれる・支えあうことができるという、つながりの輪を広げていきたいと思っています。



説明者：  
親子のたまり場すくすくかめっ子  
羽沢長谷 大木 智子氏

## 子どもを見守り育てる地域をつくる

「かたくらんど」は毎月1回行っているこどもの居場所です。活動の中で印象的なのは、ボランティアが子どもに対等な立場で真剣に向き合っていることです。子どもが親以外の大人と関わる時間が減っている現代、この場所で地域の大人と一生懸命に遊び、過ごす機会は貴重です。その体験を通して、大人への信頼を育み、「地域には安心して過ごせる場所があるんだ」と感じてもらいたいと思います。



説明者：かたくらんど  
鈴木秀夫氏

## 地域活動を通じた生きがい、地域活動への参加

介護に疲れ、息抜きを求めていた時、高齢者の交流会である「サロンにくじゃが」に誘われました。個人宅で月に1回、舞踊や映画上映などのお楽しみ企画と昼食をメインに開催しています。会に参加するうちに、他の参加者にもっと楽しんでもらいたいと考えようになり、芸能部長として「脳トレクイズ」を作成、出題するようになりました。今ではサロンでの活動が生きがいにつながっています。長続きの秘訣は、企画する自分も「楽しんでやること」です。



説明者：サロンにくじゃが  
穂永 勝巳氏

## 住民力の発掘、多様な資源がつながる仕組み

「ふれあいこ三ツ沢」は毎月2〜3回行う小中学生の放課後の居場所です。活動する中で何より大事なと感じているのは人とつながり、同じ思いの仲間を見つけることです。主任児童委員や町内会役員など、これまでの地域活動を通じた出会いの輪がつながり、居場所立ち上げへの思いを共有することで、開催場所や調理担当者、食材、学生ボランティアの協力を得ることができました。この居場所は、子どもと地域の大人の輪を結ぶ多世代交流の場にもなっています。



説明者：ふれあいこ三ツ沢  
小川 真奈美氏

## 地域と企業との連携

ユーコープは神奈川・静岡・山梨県で店舗運営と食品の宅配を行っている生協です。他にも産地交流やフードバンク等にも取り組んでいます。「ふれあいこ三ツ沢」にはフードバンクかながわを通じてご不幸などでやむを得ず受け取りができない常温の食品を寄贈しています。寄贈により泣く泣く処分していた食品が誰かの役に立つことが嬉しく、仕事に誇りを持つことにつながっています。これから食品提供や活動紹介など、地域に貢献することで、助け合いの輪を広げていきたいと思っています。



説明者：生活協同組合ユーコープ  
向坂 陽子氏

